



by 大里千尋

日々制作...

by 大木翔吾



公演スケジュール・お知らせ

10月～2013年1月 (10月10日現在)

「森と夜と世界の果てへの旅」

- 10月19日(金) 宮崎県 日南市文化センター(開演18:30)
- 10月21日(日) 熊本県山鹿市 八千代座(開演14:30)
- 10月23日(火) 宮崎県 宮崎市民プラザ オルブライトホール(開演19:00)
- 10月25日(木) 高知県四万十町 窪川四万十会館(開演18:30)
- 10月27日(土) 香川県高松市 香川県教育会館 ミューズホール(開演14:30)
- 11月 3日(土) 岐阜県中津川市 福岡ふれあい総合センター(開演19:00)
- 11月 4日(日) 兵庫県神戸市灘区 灘区民ホール(開演14:00)
- 11月10日(土) 大阪府岸和田市 マドカホール(開演18:30)
- 11月11日(日) 香川県東かがわ市 人形劇場とらまる座(開演13:00/16:00)
- 11月14日(水) 徳島市 徳島県教育会館大ホール(開演19:00)
- 11月16日(金) 佐賀県鳥栖市 鳥栖市中央公民館小ホール(開演19:00)
- 11月18日(日) 大分県玖珠町 くすまちメルサンホール(開演14:30)
- 11月25日(日) 山梨県大月市 大月市民会館(開演14:00)
- 11月30日(金) 京都府舞鶴市 市民会館(開演19:00)
- ~~12月2日(日)~~ 新潟県津南町 津南町文化センターホール
※公演延期になりました。日程は未定です。
- 「はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール♪」
12月7日(金) 島根県出雲市 ビッグハート出雲(開演18:30)
12月8日(日) 鳥取県倉吉市 倉吉未来中心小ホール(開演15:00)
- 12月24日(月) 埼玉県 三郷市文化会館小ホール(開演14:00)
- 「稲むらの火」
11月23日(金) 神奈川県三浦市 三浦市民ホール<<うらり>>
第一部 人形劇 14:00 第二部 防災のお話 14:50
※但し、三浦市・横須賀市の幼児、児童とその家族対象。事前申し込みが必要です。
お問い合わせ:YMCA三浦ふれあいの村 046-888-2100
- 「一寸法師とおたのしみ交流会」
☆11月 6日(火) 江戸川区レジナ幼稚園
2013年1月20日(日) 新宿区芸能花伝舎 1-1 開演11:00
チケット料金 おとな、こども共通 1,000円
- 「ワークショップ」
11月20日(火) 横須賀ろう学校(やなせ・善岡・榎本)
11月22日(木) 茅ヶ崎松の会(善岡)
11月24日(土) 埼玉県三郷市(やなせ・榎本・牧野)
11月27日(火) 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 人形劇発表会
11月29日(木) 中央ろう学校(善岡)

☆は学校公演です。観劇ご希望の方はデフパペ事務局までご連絡下さい。

10・11月の「森旅」全国公演を控え、ただ今、ぞくぞくと各地の実行委員さんやおやこ劇場さんから、「今はこんな感じで進んでいますよー。」というお便りが届きます。



岸和田おやこ劇場のみなさま:ちぎり絵で作った看板!

皆さんが作ってくれた看板のお写真からは「ああでもない、こうでもない。」と、いろいろ会話が聞こえてくるようで、見ていてとても楽しい気持ちになります。(デフパペのtwitterやFacebookに随時載せているのでご覧下さい。)中には、「やし酒飲んでみたよ。」という声もあって、その行動力にビックリ!! 奇想天外な「森旅」というお話をいかに楽しむか、という各地域の皆さんの様々な取り組み。改めて作品は劇団だけで作っているのではないなあと、支えてくださる方がたくさんいること、本当に心強く思います。そんな皆さんがもっともっと楽しめるものを作っていこう!!

デフパペー同ファイト・オー!!

来年、2013年6月20日(木)に向けて大阪府高槻市で『森と夜と世界の果てへの旅』の実行委員が立ち上がりました。きっかけは高槻市障害児者団体連絡協議会の山田さんと、様々な活動をしている地域の方が繋がる活動ができればいいな、とお話ししたところからです。今回は、高槻市で子育て支援の活動をしている、三島子ども文化ステーションの山本さんから、今の思いを伺いました。

【実行委員さんからの声】

5月下旬、突然デフ、パペットシアターの大家さんから今回の公演の話が舞い込みました。私達三島子ども文化ステーションは実行委員会の中で事務局を担当します。地元の障害児者団体連絡協議会や聴力障害者協会の人達と目下準備会を立ち上げ、今月第1回実行委員会を発足します。福祉と文化の融合、世代、障害、言語の壁を越えた新たな出会いから、更に人との輪・和が広がり、6・20公演の成功に繋がる事を願っています。

NPO法人三島子ども文化ステーション
山本 外志子

こんにちは。ぼんちゃんこと、企画制作担当の大木翔吾です。幸せなことに、デフパペ32年の歴史の中でお世話になった実行委員会さんが、日本全国にいらっしゃいます。

ご挨拶にお伺いしたり、公演のお願いに行ったりと、少しずつですが皆さんにお会いできて楽しい日々です。さて、密かな楽しみでもあるのが『ご当地グルメ』。最近ではB-1グランプリ等ご当地グルメが注目されています。といっても、「ジロリアン(関東で数年前から人気の『ラーメン二郎』が大好きな人のこと)な、私。ご当地ラーメンが楽しみで楽しみでしょうがない! 冷やしラーメン、牛骨ラーメン、馬骨ラーメンにブラックラーメン等々... (どれがどの地域かわかりますか!?)。その他にも「ラーメン二郎」っぽい各地の「二郎インスパイア系」も素敵です。「じゃあ今まで一番美味しかったグルメは! ?」と聞かれると... 実は実行委員さんの手作り料理なんです。僕らはどうしても外食が多くなりがちなので、出張先、公演先でいただく実行委員さんの手料理の美味しさといったらもう、格別なこと、この上無し! 各地の手料理を夢見て、今日もぼんちゃんは歩くのです。

【実行委員さんからの声】

「デフ・パペットシアター・ひとみ さいたま市公演に向けて」さいたま市在住、一児の父です。ただ今、デフパペの実行委員会さいたま市公演を実現すべく、ちょっとしたお手伝いをさせていただいています。昨年末に荒川区で1歳の子供と見られる観劇があると誘われたのが「はこ/BOXES」。それがデフパペとの出会いでした。最初は、「地元でもデフパペを楽しみたい」との単純な思いから実行委員会呼びかけ人を引き受けましたが、今では縁あってさいたま市の手話講習会に通っております。人の縁とは解らないものでデフパペから交友範囲が広がりました。手話や劇団、それまでの自分の考え、生き方とは違う新しい日常が加わりました。まだデフパペを知らない方には是非とも知って欲しいです。きっと、日常が楽しい方向へ変わります。

さいたま市 鈴木利聡

大木です。鈴木君とは大学からの付き合いで、何気ない会話から実行委員の話が始まりました。日常会話からデフパペを通じて、新しい人の輪が広がる。表現者の集団として、こんなに嬉しいことはありません。 日々

3ヶ月に一度のこんにちわ

by やなせけいこ

第 110号 2012年10月15日発行

毎度毎度のやなせの「音ばか」のお話を一つ。

「森と夜と世界の果てへの旅」(=「森旅」)の音の話。
デフパペットの「森旅」パンフレットをお持ちの方は見て
いただくと載っていますが、
この作品で使っているジェンベというアフリカのタイコには
山羊の皮が使われています。
「山羊が死んでタイコの皮になり、音になってまた生き返
る」ある絵本で読んだ(見た)
この文章が今回の作品創りの出発点の一つでした。
生活の一部、着る物や食べる物などと同じように、傍らに
いつも置かれている。
その場所で、そこに住んでいる人たちの手から生まれ、嬉
しい時や悲しい時に音をだし一緒に喜んだり悲しんだりす
る。遠くの人とお話をする時に言葉の代わりに使われ
る。
生きているんですね。人と一緒に自然に息をしている。
そんな感じが出せると良いのですが……。
今回の作品ではもっともっと「ジェンベばか」になりたいと
思っている今日この頃です。

やなせけいこ

(主に音担当・時々人形操作やセリフも…です)

お知らせ

諸事情によりまして次号(2013年1月15日発行予定)
のデフパペニュースは、ホームページのみの掲載となり
ます。大変申し訳ございませんが、皆さまのお手元への
発送は、隔号で年2回とさせていただきます。※友の会
の方には毎号お送りいたします。

尚ホームページをご覧いただくのが難しい方、紙面でご
覧になりたい方は、大変お手数ですがその旨デフパペ事
務所までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

TEL:044-777-2228 / FAX:044-777-3570

e-mail: deaf@puppet.or.jp

URL:http://deaf.puppet.or.jp/

デフパペニュース 秋号の目次

3ヶ月に一度のこんにちわ デフ役者メンバーのコラム

今回の担当は、やなせけいこです。

日々、これ制作… デフ制作メンバーのコラム

制作メンバー2人の取組みと、実行委員さんのお話を載せました!

宇野小四郎当用辞典 現代人形劇センター顧問、 宇野小四郎氏の随筆シリーズ

其の五「人形」後編

お知らせ

公演スケジュール 追加・変更される場合がございます。
詳しくはデフ事務所までお問い合わせ下さい。

デフ・パペットシアター・ひとみ

やなせけいこ	大木翔吾
榎本トオル	大里千尋
善岡修	
鈴木文	森元勝人
富安優子	
牧野英玄	
白井赫	



ろう者と聴者が共につくる

デフ・パペットシアター・ひとみ
DEAF PUPPET THEATER HITOMI

〒211-0035 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31(公財)現代人形劇センター

TEL:044-777-2228

FAX:044-777-3570

e-mail: deaf@puppet.or.jp

URL:http://deaf.puppet.or.jp/



デフ・パペットシアター
ひとみ

第 110号 2012年10月15日発行

其の五「人形(後編)」

人がヒトの形に作ったもの、今の概念でいう人形というものをいつ頃から作り始めたのかは判らない。しかし考古学でいう後期旧石器時代には石や牙やテラコッタ製のものが知られている。又同じ頃の崖面や洞窟の壁面には動物と共にヒトが描かれている。立体と平面、両者は当然異なった意義と目的をもって製作されたのだろう。それを感じるのには、絵画は舞踏をしていたり、狩をしていたりヒトの活動を具体的に描いているのに、立像はそれ以前にそれがヒトを表すものとして作られているのかどうかさえ不明に見える。ヒトでないとするそれは我々の概念でいうカミの類か、レイの類か、それとも日本ではモノと呼ばれていた恐ろしいやら、ありがたいやら判らないものかも知れないのだ。

そこで私は考えた。この立像カミとかレイであれば祀り方は皆が敬い一生懸命心を込めて祀れば良いのだが、モノとなると素人の手には負えない。崇らるゝては困るが、どう祀れば良いのかよく判らないのがモノだ。そこで仲立ちの人が出て祀りを仕切る。プロの祭司者、呪術師である。彼はモノの正体を見極め、ふさわしい供応をし、当方の希望を伝え、承諾を得ることをした。彼はやがてカミやレイを祀ることも自分たちだけが成し得る業としていった。こんな勝れた能力をもった彼らの中から王が生れた。そして王になり損ねた者は道化師(芸能の民)になったと、フレーザーという人の『金枝篇』という本に書いてある。私たち人形遣いは王になり損ねた呪術師の末裔であることは間違いないが、王になった者となり損ねた者の違いはどこにあったのかというと、それはフレーザーに言わせれば(言って無かったかな?)神の言葉を伝える呪術なんていうのは智的操作が大部分で(ということは大方向がインチキで)すぐ嘘とばれるような事を言い皆に笑われた人が道化師となり、うまく合理化(ゴマカシ)した者が王になったのだそう。(裏面に続く→)

(→表面の続き)まあこんな説は私が嘘吐きだということの遠回しの弁解かも知れないが、兎に角ヒトがその型に近い物を作り始めたとき、それはヒトそのものを表わした物ではなかったと同時に手探って動かす事を念頭においていたというのが私の考えである。

その説はどうも信頼がおけない。新石器時代の日本縄文期には1万点もの土偶が出土しているのに、型態的にも機構的にも動くようなものは1個も無いじゃないかと言われても平気だね。私は以前アフリカ、マリ共和国の刺激的な伝統人形劇を見たが、そこで使われていた人形たちは正に型態的にも構造的にも動かすものとは思えないものだった。アフリカンプリミティブアートの面構え十分だった。同じような立像の人形戯がニュージーランドにもかつてマオリ族が行っていたと、同国の人形劇研究者ローザ・ビーチャムさんが報告している。

で、話は縄文時代の土偶に戻る。山梨県の釈迦堂からは1100以上の土偶が発掘された。しかしこれらはことごとく故意に壊されて破片となっていた。これは祀った人自身の手で挽ぎ欠かれたものと考えられる。だがそのおびただしい破片の中で遠く離れた地点で出土した2個が接合して一体に復元された。この土偶は有名になり考古、文化人類、民俗などの学者がいろいろ考察した。丁度レヴィ・ストロースの構造主義が流行していた頃だから縄文の家族がどうか祭祀権の分与がどうのにとぎやかであった。私もこの子を応援した「頑張れ強いぞ、釈迦堂鈴之助」(くだらん!)

私とはともあれ縄文の土偶の祭祀は、手に持つ事を必要とし、(結果挽ぎ取って)移動を伴うものだった。そしてこの一連の祀りは、現在に至るまで継承されていると共に日本の人形芝居の源流でもあった。今回は祀りの終わりに壊される人形、異界に向けて送られる人形戯のお話し。